資料 提供	
平成30年3月30日	
担当課	県立博物館 学芸課
(担当者)	(清末 幸久)
電 話	0857-26-8044

身近な植物コーナーで「ウルシはかぶれるが役に立つ」を展示しています

鳥取県立博物館「身近な植物コーナー」では、このたび展示替えを行い、下記のとおり展示します。取材していただき広く紹介くださるようお願します。

- 1 展示テーマ 「ウルシはかぶれるが役に立つ」
- 2 展示趣旨

春から夏は特にウルシにかぶれやすい時期です。

これはウルシの仲間の樹液に含まれるウルシオールやラッコールなど皮膚をかぶれさせる成分が春から夏に多いことが原因です。山野に出かける前に、ウルシの仲間を確認しておくことは楽しい野外活動のためにも大切です。

一方で、ウルシの仲間は樹液を漆器などの塗装、果実から取れる木蝋をろうそくの材料として人々が古くから生活の中で上手に利用してきた有用植物でもあります。 かぶれるから遠ざけてしまうのではなくウルシの仲間についてよく知り、生活を豊かにしてきた歴史があります。

この展示では、鳥取県の山野で見られるウルシの仲間 と、人々の利用について紹介します。



すでに展示を開始しました。7月20日(金)まで。 休館日4月23日、5月7,22,28日、6月18日、7月2日

4 展示場所

常設展示 身近な植物コーナー

- 5 主な展示資料
- (1) ツタウルシ (押し葉標本・写真)

かぶれる力が最も強いツル性のウルシ

(2) ヌルデ (押し葉標本)

ヌルデにつくる虫こぶを乾燥させたものが染料やお歯黒の原料となる。 かぶれる力はあまり強くない。

(3) ヤマウルシ (押し葉標本)

漆液を採ることができるが量は多くない。樹液が付くとぶれる。

(4) ハゼノキ (押し葉標本)

果実から和ろうそくの原料の木蝋を採ることができる。樹液が付くとぶれる。

(5) ヤマハゼ (押し葉標本)

果実から和ろうそくの原料の木蝋を採ることができる。樹液が付くとかぶれる。

(6) 和ろうそく (実物資料)

木蝋を原料としたろうそく。

鳥取藩も原料となるウルシ類の植樹を奨励した。

(7) ウルシ (写真)・ウルシかきの様子 (写真)

樹皮を傷つけて塗装に使う生漆を採るために栽培される。樹液が付くとかぶれる。

(8) マンゴー (参考展示:レプリカ)

意外にもマンゴーはウルシ科のフルーツ。

6 連絡先

鳥取県立博物館学芸課

きょすえ ゆきひさ 担当 清末 幸久

TEL 0857-26-8044 FAX 0857-26-8041

